

U.S. Indicators

発表日: 2020 年 3 月 23 日(月)

新型コロナによる米労働市場の急激な悪化の始まり

～過去に例をみない労働市場の悪化が起きる見込み～

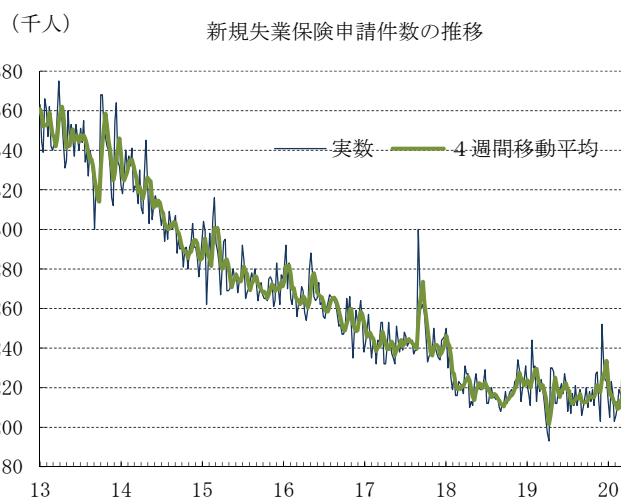
第一生命経済研究所 調査研究本部 経を済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (TEL: 03-5221-5001)

米国では、3月からの一部の経済活動の休止により、マイナス成長に陥っているとみられ、過去に例をみないような労働市場の悪化は避けられない状況となっている。

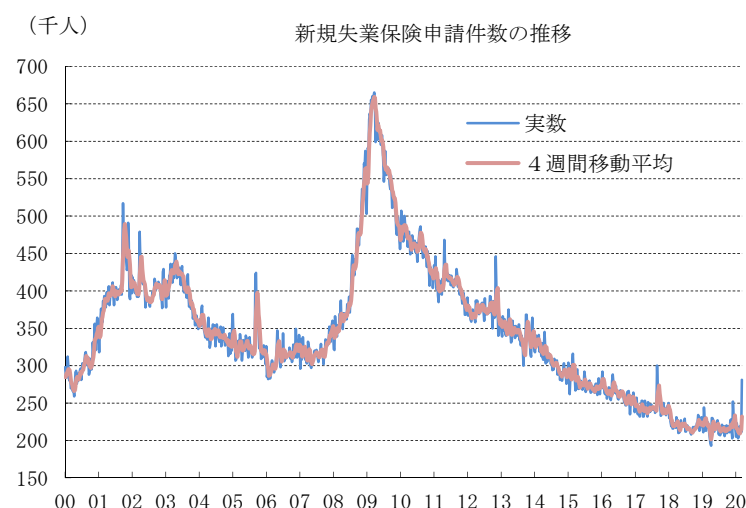
3月14日に終わった週の米新規失業保険申請件数は、前週比7万件増加し28万1000件と急増、12年のハリケーン「サンディ」襲来時以来の大幅な増加となった。より変動の少ない4週移動平均は、1万6500件増の23万2250件と、18年1月以来の高水準となった。新型コロナウイルスの感染拡大前の状況を示す3月7日までの1週間失業保険の継続受給者数（新規の失業保険申請件数より公表が1週間遅い）はほぼ変わらずの170万人だった。

新型コロナウイルスの急激な感染拡大を受け、米国の労働市場が急速に悪化していることが確認された。感染拡大の予防策である外出の抑制、イベントの中止などの影響を受け、多くの州の宿泊や飲食、輸送などでレイオフの動きが広がっている。州別では、新型コロナウイルスの感染が拡大している州を中心に急増した。カジノやホテルの休業の影響でネバダ州は約3倍の約6500件と全米で最も増加した。カリフォルニア州は約5万8000件と3割程度増えた。ワシントン州では約1万5000件と約2倍増加した。

3月22日にかけて米国を含む世界で新型コロナウイルスの感染が拡大している。米国では非常事態宣言を出した州が増加、感染拡大への対応で米経済活動の休止範囲が広がっており、今後発表される週間の新規失業保険申請件数は、数百万件台に増加するとみられ、過去最悪水準を大幅に更新する可能性が高い。



(出所) 労働省



(出所) 労働省

